



合格体験記



氏名：U.K.

【合格した自治体(校種・教科)】

大阪府（中学校・数学） ・ 神奈川県（中学校・数学）

Q 採用試験に向けて・・・

①いつから勉強しましたか

10月ごろから教材を集めたり先輩に勉強方法を教わったりしはじめ、冬合宿あたりから本格的に勉強を始めました。

②どのような教材を使っていましたか

東京アカデミーのセサミノートと参考書、精選問題集、全国過去問を使いました。

③勉強方法

教職教養→まず心理や原理を中心にセサミノートを使い、語呂合わせなどを書き込みながら用語を覚えていきました。そのあと精選問題集で分野別に問題をとき、とくに法規などは範囲も広いため実際の問題から勉強し、参考書で確認して覚えるようにしました。全国過去問が出てからは繰り返し3回ずつ解き、参考書やノートに書き込み、見直しました。

一般教養→全国過去問を中心に解きました。よく出るところ、暗記ものはセサミノートでよく確認し勉強しなおしました。苦手、頻出問題は精選問題集でその分野を中心に練習しました。

試験直前は受験する自治体の過去問を3年～5年分解きました。

④一日何時間勉強しましたか

基本的に昼前くらいから夜10時まで図書館で勉強しました。家では、寝る前にその日間違えたところやノートにまとめたところを軽く復習するようにしました。どうしても集中できない日は思い切ってはやく帰り、次の日にそなえました。

⑤どこの自治体を受けてどのような対策をしましたか

徳島県→1次試験は筆記と集団面接で筆記試験は教養のほかにも専門がありました。③の勉強と並行して徳島県の専門試験過去問を3年分繰り返し解き公式や定理を見直して整理しました。筆記試験にも施策がでるため、県の施策などにしっかり目を通しました。

神奈川県→1次試験は筆記試験のみでした。専門試験もあるため徳島県の勉強と同じように行いました。前日から神奈川で宿泊し試験を受けるため、宿泊先では前年度の試験を解き最終確認をしました。新幹線では面接にそなえて神奈川で行われている様々な施策の内容に目を通し時間を活用しました。

大阪府→1次試験は教養の筆記試験と集団面接です。筆記は③のように行い、面接はナビの面接練習に参加し、終わったあとはかならずフィードバックを行いました。自己PRや志望動機は出来るだけたくさんのひとに見てもらいわかりやすく話せるように気をつけました。答えがわからない質問などは休憩のときなどに、ナビのみんなと軽く話し合うなどして考えを広げました。

⑥二次対策はどうしていましたか(実技・専門・模擬授業)

神奈川の模擬授業は1次試験の結果が出てすぐにとりかかりました。2・3日で授業をする範囲を決め、板書案をまとめました。そのあとナビのみんなや先生に見ていただきながら模造紙づくりと授業の練習、指導案づくりをほぼ並行して行いました。時間があまりないので出来るだけたくさんの人に実際に授業をみてもらえるようにしました。大阪府と徳島県の模擬授業は1次の結果が出る前から少しずつ取り組み、中学の教科書を1年から3年までしっかり目を通しました。ナビのみんなとは、お題のくじをつくりくじびき形式にして実際の試験のように構想時間をとり模擬授業をみんなの前で行うというようにしました。個人的には出そうところややりづらそうところの板書案をノートにまとめました。大阪の専

門試験は精選問題集と過去問で勉強しました。

⑦あなたにとって教職ナビとはどのようなものですか

良いところも直すべきところも言い合える仲間だと思います。いがみ合うライバルではなくてみんなががんばっているところを見て、自分ももっとできる！がんばろう！と思えるような良いライバル関係であり、いつも助けあえる仲間だと思います。切磋琢磨とはこういうことなのだと実感しました。

⑧ゼミ(授業)と教員採用試験との兼ね合いはどうしていましたか

授業は週のゼミのみでありあまり忙しくはありませんでした。ゼミの先生の理解もあり、説明会や試験の日程も気にせずに、採用試験の勉強に集中できたと思います。

⑨バイトやボランティアはどうしていましたか

バイトは塾のバイトで週一にしてもらいました。ボランティアは試験の勉強に集中するため、3回生の終わりごろでいったん終わりということにいただきました。

⑩挫けそうになったときどうしていましたか

どうしても集中できないときは思い切って息抜きの日にしました。学校では勉強のあいまにナビのみんなと話して自分の不安を言い合ったりすることでみんな同じ気持ちなんだと気づけたし、励ましあうことも出来ました。

ご飯の時間などは、採用試験から離れて関係ない話で盛り上がりしっかりと休むことも大切だと思います。

⑪大学生生活中にやっておいたらいいこと

1・2・3回生のうちは学生生活でしかできないことをいっぱいやっておくといいと思います。友達と旅行に行くのもいいし、サークル活動で人間関係を広げたり、ボランティアやアルバイトも様々な経験が何かに必ず役立つと思います。悔いのないようにやりたいと思ったことには迷わず挑戦するべきだと思います。

Q これからどのような先生になりたいですか

生徒に「なんでもできるんや。なんでも知ってる。」と思われるような先生になりたいです。先生になっても忙しくなると思いますがジャンルをとわず、いろんなこと始めてみたり、たくさんの本を読んだり、知識を増やしていきたいです。そして、完璧というイメージではなくて生徒や他の先生方から話やすい、親しみやすいといわれるような先生になりたいです。

Q これから教員採用試験を受ける方へのメッセージ

しんどいこともたくさんありますが、終わってから後悔しないようにという決意をいつも胸の奥に持って置いてほしいと思います。いい結果が出た時は自分をほめてあげられるように、万が一ダメな結果になったとしてもあれ以上の努力は自分にはできなかったんだといえるような毎日を送ってほしいと思います。そうすればいい未来につながるはずですよ！！時にはしっかりやすんで心の余裕ももちながら、仲間と一緒にがんばってください。